

はじめての

万葉集

[vol.74]



ホトトギスの声

しています。藤原京と平城京の二度の遷都を経験するなど、激動の時代を生きた人物であり、また優れた歌人でもありました。

今回の歌の作者・志貴皇子は天智天皇の皇子で、壬申の乱で大海人皇子（後の天武天皇）に破れた大友皇子の異母兄弟にあたります。志貴皇子は、壬申の乱の後、天武八（六七九）年五月に天智天皇と天武天皇の皇子たちが吉野に集い、協力を誓った六皇子の盟約にも参加

しています。志貴皇子が亡くなつた靈龜二（七六）年（『続日本紀』による）からほどなく、養老二（七一八）年頃に生まれたと考えられていますので、直

接の接点はありません。ですが、このようにホトトギスの鳴き声を心待ちにする二人の歌をみると、歌の伝統や自然へのまなざしは、途切れることなく受け継がれているのだ

白毫寺（奈良市）

奈良市にある白毫寺は、志貴皇子の山荘が建てられていたとの伝承が残り、境内には志貴皇子の歌を刻んだ万葉歌碑があります。白毫寺の五色椿は、東大寺開山堂の糊こぼし、伝香寺の散り椿と並び「奈良三名椿」の一つとして知られています。



万葉歌人たちがうたい継いだホトトギスの鳴き声に、みなさんも耳を傾けてみてはいかがでしょうか。

（本文 万葉文化館 大谷歩）



所奈良市白毫寺町392
☎0742-26-3392

神名火の磐瀬の社の霍公鳥に毛無の岳に何時か来鳴かむ

志貴皇子 卷八（一四六六番歌）

訳
神名火の磐瀬の森に鳴く霍公鳥は、毛無の岳にいつ来鳴くか、早く来て鳴いてほしい。

万葉ちゃんの
つぶやき



万葉ちゃん